

第7回与謝野町産業振興会議 会議報告書

日 時 令和4年6月23日(木) 午後7時00分～午後8時30分

会 場 岩滝保健センター(役場本庁舎横)

出 席 (敬称略)

佐々木 由美子	岩西 拓男	小林 厚美	山崎 信之
長島 由昇	三井 真里	塩野 浩士	濱田 祐太
木原 綱雄	斎藤 善規	細見 悠人	辻 拓哉
大月 颯真			

欠 席 (敬称略)

鳥垣 壯司	今井 信一	羽賀 信彦	浪江 敏一
大江 卓	杉岡 秀紀		

事務局

商工振興課 三田課長	同 大上主幹	同 井上主任	同 西原主事
同 糸井主事	企画財政課 松本主任	商工会 黒田経営支援員	

傍聴者 1名

<会議要旨>

1. 開会

2. 挨拶(塩野会長)

◆今後の進め方について

- ・前回まで前文の見直しについて、具体的なことを進めてきたが一旦白紙に戻したい。
- ・何のための条例なのか、我々商売人がどうありたいのかなど色濃く出るような条例にしていきたい。
- ・与謝野町の産業振興はこれだと町民が分かるような条例にしていきたい。
- ・今回のテーマから生まれる新たなエッセンスやキーワードを条例に反映していきたい。
- ・これまでのことは無駄ではないし、遠回りになったが、皆様の想いをぶつけ合う貴重な機会にしたい。
- ・今後の流れとしては、条例の体裁は、事務局や正副会長等が整え、委員の皆様には確認をいただく。

3. 議事

(1) 前回の振り返り及び条例一部改正までのスケジュール感案の共有（事務局）

- ・第4回～6回会議において、前文の見直しを行ってきた。（4班のたたき台を作成）
- ・資料2の「与謝野町中小企業振興基本条例一部改正までのスケジュール感（案）」の共有
 - 9月上旬を目途に「条例改正案の制定に伴う提言」を町へ提出する。
 - 法令審査会後にパブリックコメント※を実施。（10月中予定）
 - ※町HP等を活用して、広く町民へ意見を求める場
 - ※コメントがあった場合、条例に反映するかは事務局、振興会議において検討する。（反映しなくても良い）

(2) 中小企業振興基本条例の一部改正に向けて（グループディスカッション）

【テーマ】

「地域企業はこうあってほしい、こうあるべき」

「自社はこうありたい、こうあるべき」

「条例の目的の明確化（指針）」についてディスカッション

◆全体へ共有（協議報告）

A班（発表者：塩野会長）

テーマに沿ってキーワードを各委員で意見出しを行った中で、「チャレンジ」というキーワードが多かった。

【※以下、キーワード】

- ・応援させる企業、チャレンジができるまち
- ・企業自慢（社員満足度を上げる）
- ・地域企業が連携し、協力し合う
- ・町民に愛され、共存、共栄できる関係づくり
- ・出たキーワードから結び付く大きなキーワードとして「幸せ」というキーワードが挙がった。
 - 幸せなまち、企業にしていくための役割、担い手として企業がいる。

B班（発表者：濱田委員）

テーマに沿って重要なキーワードをリストアップし、それをもとにまとめた。

軸にしたこと（目指すこと）で委員の中で一致したことは若者が帰ってきたい、住みたいと思うまちづくりを目指す。それをするための産業振興、条例にしていきたい。

→実現するために、高校生2名から出た意見としては、デジタル化されたまち、娯楽がある地域づくりが必要であり、時代に遅れない地域づくりを若者は求めている。

また、帰ってくるためには働く場が必要であり、起業や新しいことを応援できるまち、失敗を許容できるまち、地域づくりが大切ではないか。

その他では、給料、働き甲斐を上げる。

→上げるためには企業のビジネスを安定させる、成長する企業を増やしていくことも重要ではないか。

業績が伸びることだけではなく、働き甲斐アップのためにはユニークな企業を増やすやソーシャルビジネスに取り組む、地域資源を活用したり、他企業とのコラボ、テレワークで住んでもらうことも大切であり、若者が帰ってきたい、住みたいまちに繋がる。

総じて働く場、娯楽、デジタル（時代に乗る）を条例に示すことで若者が帰ってきたいまちに繋がるのではないか。

次回の会議に向けて

- ◆第4回～7回会議で出た意見を参考に事務局、正副会長で前文、条文のたたき台を作成する。
- ◆次回会議の内容は、7月15日（金）の正副会長会議にて協議する。

次回会議内容

- ◆日程について
<第8回>：7月29日（金）19時～@商工会本所
- ◆議題について
7月15日（金）正副会長会議にて協議予定

4. 閉会